



スパークス東方投資見聞録

第30号

発行日:2010年10月1日

ヘッジファンドのライフスパン

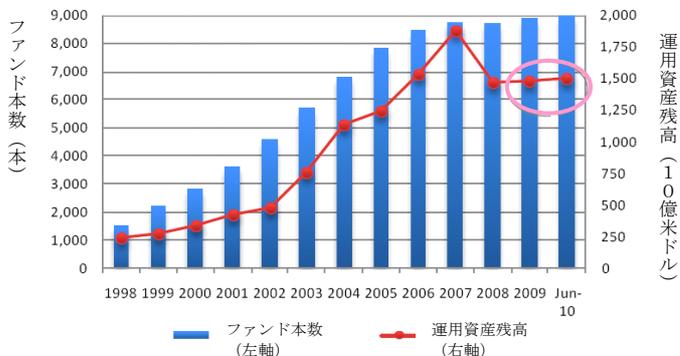
ハイライト:

- 世界のヘッジファンド業界の動向
- ヘッジファンドの設立と閉鎖
- ヘッジファンドのライフスパン
- 最後に

世界のヘッジファンド業界の動向

世界的な金融危機で減速したヘッジファンド業界も、2009年の春頃より、パフォーマンスの改善による資金フローの回復から、再び成長し始めています。特にファンドの本数は、2007年のピークを超え、2010年6月時点では約9,000本にまで上っております。そこで今回は、ヘッジファンドの設立と閉鎖の動向やライフスパンについてお話したいと思います。

世界のヘッジファンドの本数と運用資産残高

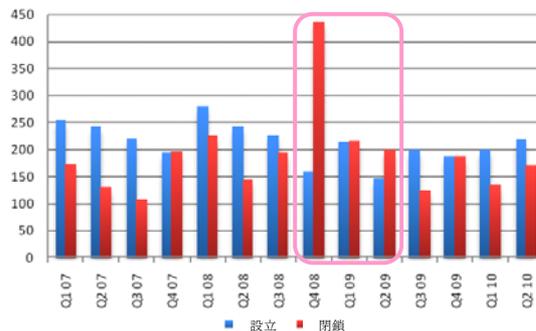


出所: ユーリカヘッジ

ヘッジファンドの設立と閉鎖

2008年の世界的な金融危機は、ヘッジファンド業界の成長を鈍化させました。特に、2008年9月～2009年6月の間は、閉鎖されるヘッジファンド数が、設立されるヘッジファンド数を上回りました。これは、同業界が成長し始めた2000年から続いていた成長トレンドが、はじめて崩れた現象といえます。

世界のヘッジファンドの設立数と閉鎖数



出所: ユーリカヘッジ

しかしながら、直近では、市場の魅力的なバリュエーションやその他の投資機会の出現などにより、設立されるヘッジファンド数も増加し、通常時、つまり設立ファンド数>閉鎖ファンド数の状態となっています。この回復の背景には、市場が安定したことと、それに伴いヘッジファンドが生み出すリスク調整後の安定的なリターンを求める投資家が、同業界に戻ってきていることがあります。

ヘッジファンドのライフスパン

ヘッジファンド投資で安定的なリターンを獲得するためには、できるだけトラックレコードのあるファンドに投資することが重要です。なぜなら、長期にわたって運用されているヘッジファンドは、市場の急落局面や幾多の経済危機を乗り越えてきたファンドといえるからです。実際にトラックレコードが6年以下のヘッジファンドは、全体の約70%に上り、トラックレコードの平均年数で見ると約5.4年になります。これを見ても、いかにヘッジファンドが長期的に生き残ることが難しい

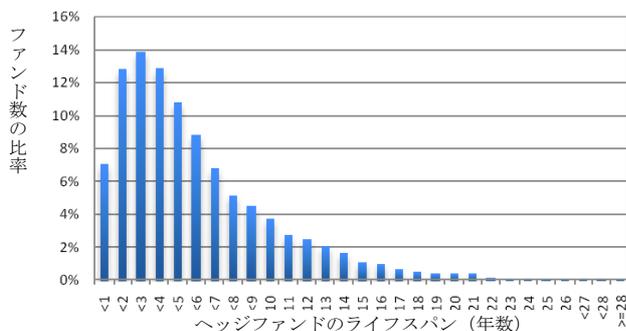
ヘッジファンドのライフスパン

かがわかりますが、一方でこうした新陳代謝があることも同業界の強みといえます。

最後に

大手運用会社や投資銀行で活躍する運用者の独立が相次いだ2003年当時と比べると、現在ヘッジファンドを設立するハードルは相当高くなってきているといえます。しかしながら、厳しい環境においても、ヘッジファンドをスタートさせることができる、つまりシードマネーを呼び込むことができる優れた運用者は出てきています。今回見たようなヘッジファンドの数々の設立と閉鎖が、より同業界を強くし、そしてより洗練されたものになっているのです。

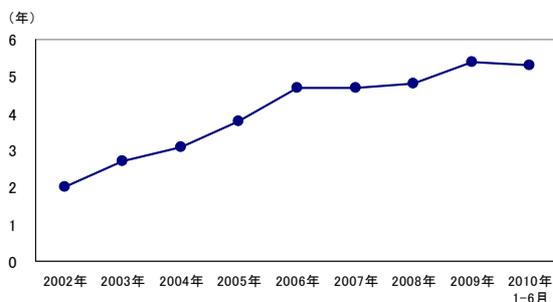
世界のヘッジファンドのライフスパン分布



出所：ユーリカヘッジ

もちろん、各年の平均ライフスパンを見てみると、年々年数が長くなっていますので、長期にわたり運用に成功しているファンドや成功報酬に頼らずに運用資産残高だけで運営して行くことができているファンドが増えているということもいえます。

各年に閉鎖したファンドの平均ライフスパン



出所：ユーリカヘッジ

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員 日本証券業協会会員